

## 理学部卒業生へひとこと

鳥海幸四郎

理学部の卒業生のみなさん、今年定年退職した鳥海です。皆さんと同じく理学部を無事に卒業（退職）した新人です。よろしくお願ひ致します。

新人といっても、社会人として大空に羽ばたく皆さんと違って、空から地上に降りて（鳥ですので木の上か？）ゆっくりと時を過ごすことになりそうです。しかし、これから何をしようか、何ができるか迷いながら、いろいろと挑戦して行くことは変わりがないかもしれません。何もしないことも、無謀なことをすることも、考えようによっては挑戦でしょう。人間、死ぬまで挑戦です。

風薫る5月。新緑がまぶしい理学部の中庭。うぐいすや色々な小鳥がさえずるテクノ。都会から来た学生さんにとってはあまりにも何もない田舎の風景に不安な気持ちを持ったのではないかと思います。入学直後の理学部キャンパスでのガイダンスのひとつとして恒例のキャンパスツアーの時、教務委員の一人として皆さんを何回か引率しました。その時の印象は、ツアーの列の後方から聞こえる皆さんのつぶやき、「何もない所だな」とか「こんな所には来たくない」です。しかし、実際テクノで3年間（大学院を含めると5年、8年）生活してみて如何だったでしょうか。卒業して他の場所で生活してみて、テクノでの学生生活をどのように思い出すでしょうか。

卒業祝賀会でもお話ししたことをここでも書きたいと思います。テクノでの学生生活を楽しく思い出すことが出来るようであれば、大学生活をエンジョイできたのかなと思います。いろいろな出来事についてどのように感じるかは、多少極論になりますが、「自分の心、気持ちの問題」でしょう。自然環境も学習・研究環境も良い（？）が、遊びや食べるころなどが少ないテクノの環境に順応できた人はそれなりにハッピーではなかったかと思ひます。話は飛びますが、皆さんは理学部で自然科学を学ばれたわけですが、自然（科学）を理解する場合も同様なことが言えるのではないのでしょうか。自然科学を勉強したり、研究したりするときも、自分の頭でどれだけ自然（現象）を正しく理解できたかを考えてみると、要するに、自分の頭で理解できたことしか自然は見えて来ない（理解できない）、ということになります。だからこそ、自然科学として、いつまでも我々の研究の対象であり続けることになるのでしょう。話を人間社会に戻してみると、人生も然りではないのでしょうか。どのように自分の人生を考えるか、安易に妥協しても面白くありませんし、自分を蔑んでもつまらない。時に楽しく、時にヤッターと言えるように頑張ってみることも大切でしょう。そのためには、「一生努力、一生勉強」でしょう。つらいときこそ前向きに努力し、

楽しいときは少し慎重に努力する。あとから、その努力が報われる時が来ると期待して。

もう一つおまけは、「相手をリスペクトする（敬意を表す）ことを忘れないように」ということです。しばらく前にサッカー選手がよく使っていたようですが、辞書を引いてみると「敬意を表す」と書いてあります。世の中、悪意を持って接触してくる人もいて、それらの人に対しては防御することも必要です。しかし、それ以外の人に対してはリスペクトすることも大切でしょう。理学部を卒業された皆さんですから自然科学（現象）に対してリスペクトしている（？）と思いますが、それと同じように、他の人をリスペクトすれば、その人も自分をリスペクトしてくれる。言うのは簡単ですが、実行するのはなかなか難しいと思います。それでも努力していれば、会社でも家庭でも気持ちよく、ハッピーになれるでしょう。

私は理学部を退職して毎日が日曜日です。皆さんは毎日、仕事に遊びに多忙な日々を過ごされていると思います。たまには、ふっと肩の力を抜いて、自分を静かに見つめるとよいかもしれません。

皆さんのこれからの人生がハッピーでありますよう、また理学部で学び・努力したことが実りますように祈念します。（2015年5月、理学部にて）